

時代を読み解く

シリーズ 30

絶頂と試練を経験 毀誉褒貶の人物評

2024年3月、インドネシア選挙委員会はプラボウォ・スビアント国防相が

過半数の58.6%の得票率を得て、6月の決選投票を待たずに次期大統領に選出されたことを発表した。

は、スカルノ政権、スハルト政権を通じて、大臣等を歴任したスミトロ・シヨハデックスモ氏の次男で、またスハルト元大統領の娘婿でもあった。

その軍歴は、スハルト大統領（当時）の後ろ盾の下、エリート部隊である特殊部隊（コパス）司令官や次期国軍司令官をうかがうポジションである戦略予備軍ト政権を通じて、大臣等を歴任したスミトロ・シヨハデックスモ氏の次男で、またスハルト元大統領の娘婿でもあった。

身を目指す、そのポジションを高めていった要因としてインドネシア特有の権力政治が挙げられる。

軍の要職にあった時代、プラボウォ氏は政権に批判的であったメガワティ氏と闘争民主党（PDI-P）に就任するなど華々しいものがあった。

しかし、スハルト政権末期の政変時には、その後ろ盾が仇となり、ウィラント内権力闘争に敗れ、その後には軍籍剥奪や海外生活を余儀なくされるなど大きな試練も経験している。

注目される元軍人で国防相

プラボウォ氏の手腕

—インドネシア次期大統領、10月に新政権—

対立候補のプラボウォ氏の影響力を内部に取り込むべく、組閣に際して彼を国防相に抜擢した。

このような因縁がありながらも、09年、メガワティイメーリアップを巡る一

19年の大統領選挙では、自身を元軍人で強いリーダーシップを持つ人物として

対立候補のプラボウォ氏の影響力を内部に取り込むべく、組閣に際して彼を国防相に抜擢した。

このような因縁がありながらも、09年、メガワティイメーリアップを巡る一

19年の大統領選挙では、自身を元軍人で強いリーダーシップを持つ人物として

新政権の方向性 米と連携強化も

イ党首とシヨコ大統領は次期政権での影響力を巡って微妙な関係になっていた。

最後に、今年10月に発足するプラボウォ新政権の方向性について検討する。また、前回の選挙で敗れたシヨコ大統領の長男で、口市長を務めるギブラン・ラカプミン・ラカ氏を副大統領候補としてタッグを組むことで、現職大統領が持つ幅広い支持層と圧倒的な動員力を取り込むことに成功



今月の講師

とみかわ ひでお 富川 英生氏

防衛研究所 理論研究部 社会・経済研究室長

1971（昭和46）年生まれ、兵庫県出身。千葉大学法経学部卒業、東京大学大学院経済学研究科修士課程修了（経済修士）、同博士課程中退、豪国防大防衛戦略研究課程修了、英シェフィールド大学東アジア研究課程修了（修士・東アジア研究）。2003年防衛研究所入所。主任研究官などを経て、今年4月から現職。専門は東南アジア諸国の経済・産業政策。近年はグローバルな防衛装備ビジネスや国際安全保障の経済的側面などの調査研究にも従事。主な研究論文に「国防イノベーション・エコシステムのマネジメント」『国際安全保障』第49巻第1号（21年6月）など。

競争と調和図り 巧みに権力追求

一時海外で身を隠していたプラボウォ氏は2001年に帰国し、政治家への転

功した。また、前回の選挙戦と同様にSNSを巧みに利用し、前回が社会の分断を

テーマをさらに深掘り 「防研セミナーフリーフィング」

執筆者の富川室長が今回のテーマをさらに深掘りして解説し、防衛省職員と突っ込んだ議論を行う「防研セミナーフリーフィング」が7月29日（月）午後3時～4時まで、市ヶ谷のF1棟6階「国際会議場」で開催されます。参加者・聴講者は隊員に限定します。ご興味ある方は奮ってご参加ください。▽問い合わせ＝防研企画調整課03-3268-3111（内線29177）まで。